

平成20年度環境技術実証事業
ヒートアイランド対策技術分野（建築物外皮による空調負荷低減等技術）
の運営全般に対するご意見

| 意見者 | 意見内容 |
|--------------------|---|
| 住友スリーエム株式会社 橋本氏 | <p>1. <事業の進め方> 建築物外皮（窓ガラス用フィルム）の冬期における効果について、使用される建物の種類や立地によってどのような考え方をすればよいのか。熱貫流と日射侵入以外の指標や要因についてのヒントなどいただければ。</p> <p>2. <実証のあり方> この事業で出して頂いた結果については、公の場で活用される機会が増えてきています。ついては評価の機会について、頻度をもっと増やしていただきたい。また、その評価期間を短縮していただきたい。</p> |
| 日本ペイント販売株式会社 及川氏 | <p>環境実証事業を有効な社会的認知とすることを検討したい。 （検討案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WEB サイトを利用し、一般の方にもすぐに検索でき、分かりやすい広報活動の展開。 ・ 環境工学的予測計算と実際の相関性の実証。 ・ ヒートアイランドのみならず、世界的課題である地球温暖化・CO2削減に対する実証の検討。 <p>CASBEE など、業界認知が広まっている評価基準や、国・自治体などへの働きかけ、個々の基準化動向とのマッチングなど。</p> |
| 合成高分子ルーフィング工業会 澤西氏 | <p>①実証によるメリット 本事業(建築物外皮による空調負荷低減等技術)による評価が、グリーン購入制度の特定調達品目の指定審査の際の評価に資する様、関係官署との調整をお願いしたい。 [理由] 本事業の主旨を実現させるため。</p> <p>②実証のあり方 「高反射率防水シート」の評価に、防水シート自体に高反射機能を付与したものに加え、高反射率塗装を施したものも加えて頂きたい。また、防水シート製造者の工法仕様に基づいた断熱材での評価をお願いしたい。</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| | <p>[理由]</p> <p>下記 a.b.ア.イの各工法に適した断熱材として、ポリスチレン、ポリエチレン、ウレタン等が製造者の仕様書に基づき用いられるため。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高反射率機能を付与する手法による分類 <ul style="list-style-type: none"> a.高反射率防水シートを用いた工法。 b.通常の防水シートに高反射率塗装を施す工法。 ・防水シートを敷設する工法による分類。 <ul style="list-style-type: none"> ア. 接着工法(接着剤で張り付ける) イ. 機械固定工法(ビスで留め付ける) <p>*高反射機能と防水工法の整理について、工業会として別途お打ち合わせさせて頂きたい。</p> |
| <p>大阪府環境農林水産総合研究所</p> | <p><事業の進め方①></p> <p>高反射率防水シート技術については、シートそのものと仕上げ材（塗料）を製品としているものがあるのでユーザーに誤解を招かないように技術名称に注釈や細区分などが必要ではないか。</p> <p>[理由]</p> <p>高反射率防水シート技術には、あらかじめ高反射率塗料を焼き付けたものと防水材上に施工現場で塗布するタイプのものがある。塗布タイプのものを高反射率防水シートとして標記するとユーザーに誤解を与えるおそれがある。</p> <p><事業の進め方②></p> <p>環境技術実証事業として当技術の健全な普及に向けた取り組みをする上で、高反射率塗料の環境技術開発者は指定された明度の試験体を適正に作成して実証機関に提出する必要がある。このため、環境技術開発者が試験体作成に係る時間を十分にとれるよう実証機関は無理のない試験スケジュールの設定が必要である。</p> <p>[理由]</p> <p>灰色は試験体の明度を指定していたにも関わらず指定した明度の範囲外のものがあった。</p> <p><実証のあり方／実証によるメリット等の向上></p> <p>クールシティ中枢街区パイロット事業等、国や地方公共団体等が実施する事業を活用して実際の建築物等を使った実証を行ってはどうか。</p> |

| | |
|----------|--|
| | <p>また、環境技術実証事業参加企業へ更なるメリット性の向上の点から、国などがモデル的に行う事業等に積極的に関わる必要があるのではないか。そうした事業における環境技術実証事業の役割は実施への技術導入による評価を行うことであり、また、技術を導入する側も導入による効果を評価、検証する必要があると考える。</p> <p>各々事業の特徴を活かすことで、事業が本来目的とする技術の普及促進に繋がるものとする。</p> <p>[理由]</p> <p>本技術分野の実証は、主に光学特性の測定値を基にシミュレーションを行うことであり理論的なものである。このような実証とは別に話題性や実証結果を実感するために実際の建築物を使った実証も考えられる。</p> <p><その他></p> <p>環境省の本事業HPの技術情報については、報告書の公表のみならず、技術一覧表の作成、企業HPへのリンク付け、対象実証技術の紹介パンフのファイル添付など、知識の乏しいユーザーでも容易に技術内容を理解できるような工夫が不可欠であると考えます。</p> <p>[理由]</p> <p>結果報告書・概要版のみでは、本事業に精通していないと技術の中身を正確に理解することは困難と思われる。</p> |
| 日本塗料検査協会 | <p>1. 事業の進め方</p> <p>高反射率塗料は屋外曝露4ヵ月を設定している。技術募集を10/10に締切り年度内に報告書まで仕上げるには、塗装板作成に与えられる日数が少なすぎ塗装仕様書通りの養生が取れずバクロで一部に塗膜異常が発生した。1～2ヵ月実施時期の前倒しを希望する。</p> <p>2. 実証のあり方</p> <p>本実証事業では空調負荷低減効果をシミュレーションしている。高断熱建築物では空調負荷低減効果が得れず、シミュレーション対象から外さざるを得ない。近年議論されている100年・200年の耐久性が期待される建築物（高断熱建築物）にも適用できる、直接ヒートアイランド対策効果を実証する実証事業への改善を希望する。</p> |